

# 西光寺だより

第九十号 平成三〇年二月一日発行

二月に入り立春といえども寒い日が続いております。二月は、陰暦で「如月」といわれますが「衣更着（きさらぎ）」とも書かれます。それは、この時期が一年を通して最も気温が低いことから、重ね着をして寒さをしのぐという意味を表しているようであります。空気の冷たさと相まってかじかむ手足に春のぬくもりがいつそう恋しくなります。

そんな春を待ちわびる日本人の思いは平安時代から変わっていないようです。古今和歌集にはこの時期に謳われたこんな歌があります。

「冬ながら 空より花の散りくるは 雲のあなたは 春にやあるらむ」

「まだ冬でありながら空から花が散ってくるのは、雲の向こうはもう春なのであろうか。」（現代語訳）

降っている雪を白い花と見立てて、春への憧れを詠んだ歌です。どれだけ時代が変わっても、人が感じる思いはそれほど変わるものではないのでしょうか。ずっと昔の方も同じように春の待ち遠しさを感じていたのだらうと思えば、なんだか嬉しい気持ちにさえなります。それと同時に同じ情景を見ても、見る者によって様々な捉え方があることにも気付かされます。空から降ってくる雪を白い花と捉え、雲の向こうに春があるかもしれないと思える心は、ただただ寒さに凍えるのを耐えるよりどれだけあなたかな気持ちにさせてくれることでしょう。「あたたかい春はそこまできていますよ」まだ感じられないけれども雲のむこうにまで来ている春をふと垣間見せてくれます。それは冷たくなった心にもふつとぬくもりを投げかけてもらっているようです。千年以上の時を経ても、人の心は時には歌となつて人の心をあたたためてくれるのです。そして、私たちが今感じている思いも、もしかしたらずっとずっと先の誰かの心をあたたためることが出来るのかもしれないと思えます。それはきつと固くなった自分の心をあたたためることから始まるのではないかと思えます。大丈夫、春はすぐそこまできていますよ。



## ◆先月の報告◆

今年も一月九日（火）〜十六日（火）まで京都西本願寺にて御正忌報恩講が厳修されました。宗祖親鸞聖人のご苦勞をしのび、そのご苦勞を通じて、阿弥陀如来のお救いをいただくことをあらためて心に深く味わわせていただく法要であります。遠近各地より多くの浄土真宗のご門徒さん皆さんで親鸞聖人を偲ばせていただき、お参りさせていただきました。

親鸞聖人のご命日は旧暦十一月二十八日です。本願寺では、これを太陽暦にあらためて一月十六日とし、一月九日から十六日まで御正忌報恩講をお勤めいたします。

今年も私も列衆として本願寺内陣出勤させていただきました。去年の、皆さんで大掃除（お煤払い）をした畳を感じながらお勤めしてまいりました。凜とした空気の中、雅楽の音色を聴きながら、ご門主様・前門様ご出座のもと声高らかに響きわたるお念仏は圧巻でありました。

その期間の中、ご門主から御法話（ご親教）を聞かせていただきました。その内容を載せたいと思えます。

本年もようこそ御正忌報恩講にご参拝下さいました。全国から親鸞聖人をお慕いする皆さまがご参拝くださり、ご一緒におつとめをし、お念仏申させていたただく尊いご縁であります。このご縁にあたり、あらためて親鸞聖人がお説きになった浄土真宗のみ教を味わわせていただきます。

親鸞聖人は、比叡山で二〇年間、さとりを求めて修行をされましたが、我執、我欲の心である煩惱が無くなることはありませんでした。『嘆徳文』には、親鸞聖人のおこころを「定水を凝らすといへども識浪しきりに動き、心月を観ずといへども妄雲なほ覆ふ」（註釈版聖典一〇七七頁）と記されています。平らな水面を見ると波が立ち、月を見ると雲に覆われてしまうということですね。

親鸞聖人だけでなく、仏教を説かれたお釈迦さまの時代から、私たち人間の姿は変わりません。それは、この世界の真実をありのままに受け止めることができず、自分の思いやとらわれの中で悲しみ苦しむ姿であります。親鸞聖人は、そのような私たちを救おうと阿弥陀さまがはたらきかけてくださっていると明らかにされました。阿弥陀さまのおはたらきの中で、私たちは真

実を聞き、真実に気付くことができます。そのことによつて、自分自身のありのままの姿、自己中心的な姿を知ることができます。

さて、科学技術が発達した現代社会ですが、それゆえにさまざまな問題も起こっています。今のままでは人間が存在することのできない地球になってしまうという強い危機感が世界で共有されています。そのことを背景として、二〇一五年に国連で全会一致で採択された「SDGs 持続可能な開発目標」は、地球環境と人々の暮らしを持続的なものとするため、深刻化する地球規模の課題にとともに取り組み、人類の未来を切り開いていくことを目指したものです。

「誰一人取り残さない」を理念として、そこで取り上げられた課題には、二〇三〇年までに達成する「貧困」「教育」「ジェンダー」「不平等」「平和」など世界を変革するための十七の目標が掲げられています。そして、日本においても未達成とされている目標が多くあります。

先ほども述べましたように、私たち念仏者は、阿弥陀さまのおはたらきの中で、自分自身のありのままの姿、自己中心的な姿を知ることができます。そして、阿弥陀さまの救いのおこころを知らされた私であるからこそ、他の方の悲しみや苦しみに無関心ではいられません。さまざまな社会の問題に関心を向け、私にできることから解決への取り組みを始めていきましょう。

今年の報恩講にあたり、浄土真宗のみ教えを依りどころとする念仏者の生き方を共に考え、今日からの日々を過ごしてまいりましょう。  
本日はようこそご参拝くださいました。

西光寺のホームページの冒頭にあります、『みんなバラバラだけど みんな、いっしょだよ』。考え方も人種も肌の色も言葉も性別も健康も病気も年齢も、考え方や思い、色んなことがみなバラバラ。そんな私たちが、この地球、地域、時代や時間とともに生きている。おたがいに影響しあいながら。そのことに気づき互いに思いやりと優しさをもって生きていく。ご門主様のご法話を聞かせていただいて、さまざまに寄り添っていただいている阿弥陀さまがいてくださるからこそ安心の中で、感謝しながら生きていくことができる。  
そんな浄土真宗の生き方を学んだような気がします。

## ◆二・三月の行事◆

・三月 二十一日（水・春分の日）

仏教婦人会 追弔会・総会

午前十一時三〇分〜追弔会（正信偈）

昼食

午後一時〜

総会

西光寺本堂



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一―七―二

電話 〇七二―六二二―四七九四

FAX 〇七二―六二二―九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>